



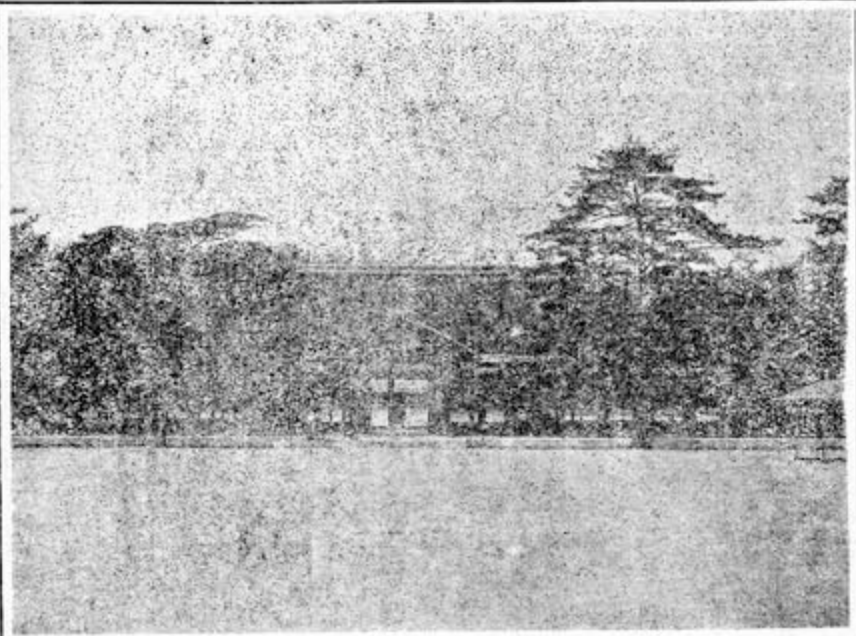
昭和十年二月一日印刷
昭和十年二月五日發行
發行所 東京市東區東區
社 東京市東區東區

Table with columns for advertising rates (定額, 廣告料, 紙面) and subscription prices (定額, 紙面, 紙張).

外報專報
ロンドンに於ける軍縮豫備會議
英米の代表者が膠着したる折衝を閉じて戻りしに、現存條約は...

明治天皇御製
天津神定めたまひし國なれば
我が國なからたふごかりけり

寶祚の隆え天壤と
與に窮り無し
奉原の千五百秋の瑞穂國は是れ吾が子孫の王たるべき地なり...



原神宮

建國二千
五百九十五年...
紀元の佳節を迎へて
奈良藩區司令官 田路朝一

軍縮問題に就て
海軍省海軍軍事普及部
處に國を成す日本の使命が何處に在るか...

一、日本の國防と東洋
我日本帝國は太平洋の西端に在り...

如何なる苦境難局に際會する
共其責を畏みて、軍人を股肱とす
如何なる苦境難局に際會するも、毎に正義を守る騎士と...

本誌には修養、軍事事業を記載する外交部と聯合分會及分會との連絡に必要な事項が掲載してあるから役員等に分會長常務理事等は必ず通讀するを必要とす

訓練を積みつゝある所以であ
る。而も、最近半世紀に於ける科學
の進歩、就中交通通信機關の
發達は地球表面に於ける距離
を著しく短縮するの結果を招
來したが、國防作戦上に於け
る其の影響は特に甚しきもの
がある。例へば艦船の行動力
のみに就て見ても、華府會議
當時に比し現在は二倍乃至三
倍の増大を示し、航空機の發
達に至りては殆ど驚異的であ
る。

從つて往時に於ける防禦軍
の地理的優位云々が如きは
近代化せる艦隊の前には殆ど
其の價値を失ふに至つた。
日本は嘗て華府會議に於て
主力艦、航空母艦の對、英、
米六割を承認した。次で倫敦
會議に於ては假令暫定的に
云ひ乍ら更に補助艦に關し、
極めて不利不合理なる比率を
も認諾したのである。
之れ蓋し平和を愛好し謙讓
自ら持する日本民族傳統の精
神に基けるものである。

凡そ公正妥當なる軍縮條約
に充分なる「軍備の保持を規
制し國防上に脅威を感じしむ
る」こと無く、國民生活に安ぜ
しむるを以て基調とすべく、
現有勢力を基準とするが如き
暫定的の協定ならば兎も角
斷じて恒久的存在の蓋然性を
有するものではない。而も華
府條約に於ては其の現有勢力
の算定に甚しく公正を缺いて
居たことは識者の眼を蔽ふべ
からざるの事實である。更に
倫敦條約に至りては現有勢力
の基準をも無視して低比率を
割當てられたる日本は現有兵
力をも縮減し他方高率を維持
する國は旺に造艦擴行を行ふ
の奇怪なる事態を現出するに
至つたのである。

我等は我等の最も敬愛せる
偉人ワシントン、リンカーン
の崇高なる精神を傳統として
繼承するところの友邦合衆國
人士の正義人道觀に向つて敢
て問ひたい。
冷靜なる心境に於て、隣邦
日本と立場を替へて一考した
らざつた。如何に華府會議當

各國識者間に於ても唱道せら
れつゝある處である。而して
暫定的協定たる倫敦條約は一
九三六年末を以て自然滅する
ものであるが、華府條約に於
ても協定以來既に十二年を経
過し、其の條文中に規定せら
れたる改定の時期に到達せる
ものであるから、其の規定に
遵ひて之を廢棄を行ひ、新に時
代に適合する公正妥當なる新
條約を協定せんとするは一に
自然の要求である。而して國
際軍縮會議も既に長期間の歴
史に幾多の試練を経たる今日
新に協定せらるべき條約では
各國の國防主權を尊重し、國
防の安全を満足せしめねば
處である。確信するも、不幸
にして自我に執着し、毫も他
國民の眞情を顧みず、他國
の態度を待たず、他國の命
運に於ては、今大軍縮會議の
すべからざるべきのみであら
う。斯くして生ずべき國際的
不安に對しては、其の責の總
を負擔すべきである。而して
遠に正義人道の公敵たる汚
名を免がらざることは出来な
い。

日本が布哇、アラスカ等を
領有し更に米本國に近き加奈
陀或はメキシコ附近に其の領
域を有し、日本の十割に對し
米國に六割の海軍力を約束し
た。假令したら如何、合衆國
民は果して何等の不安、脅威
を感じるべきが無いかさうか
今や艦隊兵力の内容は過去
協定當時に比して、性能上革
新的の進化を來した。
從つて從來の相對海軍軍備を
以てしては、東洋海面の防備
日本の生存權擁護は甚だしき
不安、脅威を感じるに至つた
而も、最近日本を廻る國際情
勢にも亦大なる變遷がある。
是等の諸因は相加はりて一般
日本國民に對し、益國防上に
於ける危険を痛感せしむるに
至つたのである。既に時代に適合
せず、日本に於ては其の生
存權をも脅威せんとする既存
條約を解消し、新に公正妥當
なる軍縮條約を協定して東洋
の平和を保障し國防の恒久的
安全を確保し得る海軍軍備を
整頓すべしとの叫びは、九千萬
の國民を擧げて高唱せらるる
に至つたのである。

三、既存軍縮條約の解消
と新軍縮條約への待
望
既存軍縮條約が既に其の存
在の蓋然性を失ひ、反つて有
害無益のものとなりつゝある
は、獨り日本國民のみならず

（期一第） 移推の勢情際國
——龍黃れ情—— 本日の本日



ならぬこと勿論であつて、之
が爲には互に他を脅威せざる
軍備の協定を行ふを要すべく
此の原則に基き攻撃力は飽く
せねばならぬ。而も軍縮の大
精神に則り極力各國の保有量
を尊重し、所謂不脅威不給
の原則の下に、併立して非
平和維持の責務を擔ふべき
である。
三、足の長短は平和維持安
定を害すであらう。日米三
大海軍力の均勢保持、之作
大天意に適ひ理想に則る
もの云ふことが出来や。

職業輔導部ヨリ

一、一般在郷軍人及今次の除隊者中には陸軍造兵廠
職工を志望するもの頗る多く輔導部に出願さ
すれば何時でも轉換して貰へる如く思惟する者
がある、然れども工廠に於る職工の募集は必要
に應じ其時期を定めて所要工を募集するもので
あることを承知せられたい
二、嘗て希望を述べたる如く就職を轉換せむすれ
ば先づ其人を知らなければならぬ
仍て就職を願出づるものは適宜の時機を見て一
應輔導部へ出頭して是非主事に面接するように
されたい
三、熱心なる巡查志願者も相當に多いようであるが
各府縣の巡查試験も隨分志願者が澤山あつて自
然競争が激しい譯である然るに志願者の普通學
學力は學歴に比して一般に低い様に思はれる、
仍て受験を志すものは平素其準備を怠らぬ様努
力が必要である
四、近來信用の如何はしい會社等から在郷軍人の求
入が多いが之等に對しては十分内容を調査して
應ずるやうにせねば後日さんだ悔をのこすやう
なことになるから深く留意せねばならない、斯
る場合にはよく職業輔導部に就て相談するがよ
い
五、傷痍軍人中に就職等に關し直接に大臣人事局長
恩賞課長等にあて親展書を以て上申する向が往
々ある由である之等は必ず所管の聯隊區輔導部
主事に相談するようすべきである

縣人赤誠

國防獻金ト
恤兵金

一時ハ國軍食糧ニ山ト積マレタノ任務ニ盡シテ其勞苦ヲ想
慰贈品ヲ慰問袋モ月日ノ經過ト共ニ到ル時服衣飽食高以シテキルコ
ニ段々ト減少シテ今テハ其影モナトガ出来ナイコトヲ痛切ニ感シサ
カナルノテハナイカト懸念セラレセラルノテアル、
テ居ル有様アル、鐵道沿線ノ繁
華ナ地方ナ其ノ他表面ダケノ狀況
テ一瞥シテモハ平穩ナ警備
ノ勞モ輕クナラズ等ト考ヘルハ大
ナル誤リテアル、特ニ我郷土部隊
ハ朝北極寒ノ地テ人煙稀ナル地
ノ曠野ニ立チ我ガ生命ヲ確保シ
テ寒威ニ抗シ匪賊ト戦ヒ日夜警備
一、千九百三十四圓十七錢
一、千九百七十八圓八十三錢

龐大ナル吉野郡聯合
分會分割セラル

本年十一月二日吉野郡聯合分會分
會會議ニ於ケル決議ニ基キ吉野
郡聯合分會分割ニ關シ左記ノ如ク
決定セラル
左記
一、吉野郡聯合分會ヲ三聯合分會
ニ分割シ其ノ配屬ヲ定ムル事
二、新聯合分會組成ノタメ左ノ委
員ヲ設ケラル
イ、吉野郡東部聯合分會組成
委員
芳川 雄三 福岡 傳一
井植 定雄 榎谷 義一
沼部 直直 玉置 重行
西文 四郎 玉置 重行
右記
今西宇一郎 住川 龍三
中瀬古種一
ロ、吉野郡西部聯合分會組成
委員
羽川庄太郎 紀莖 治孝
片山貞五郎 徳川 廣明
岡谷 利一 小西 藤作
更谷 正直
ハ、吉野郡十津川村聯合分會
組成委員
沼部 直直 玉置 重行
西文 四郎 玉置 重行

Table with columns for regional divisions and member lists. Includes sections for '東部聯合分會', '西部聯合分會', and '十津川村聯合分會'.

キンカン
財團法人大日本聯合婦人會
大日本聯合女子青年團兩團
金冠總取扱所
奈良縣配給所
伊藤彌太郎
郡山、柳三丁目

キンカン

日本聯合女子青年團兩團
金冠總取扱所
奈良縣配給所

伊藤彌太郎
郡山町柳三丁目

個人から

送る慰問品も

特に關稅免除

友邦滿洲國の絶大なる好意に依り、今後在滿皇軍將兵慰問の目的を以て日本國內より發送する小包郵便に對しては個人から差出すものでも滿洲國の關稅を免除し、個人宛に慰問品を發送しようとする特志者に對し便宜を計る事なつた、これが爲め今後之れを利用して絶えず親族知人其の他同郷出身者等を慰問する事が出来る、特に獨立守備隊等の如き内地に管區を有せざる部隊に對する、慰問品發送の状況から見ると、夫等の部隊所屬の者に對し大いに之れを利用せらるゝが、併しなごら之れが利用に當り、萬一不法行為の具に供するやうな事があつては、切角の滿洲國の好意を無にする事になり、なるの、なるので一般に十分注意せらるゝやうに當局者は希望されてゐる、尙無稅通關の手續はされても送料は勿論

軍 軍隊内務書の改正

皇道精神の發揮と

隊長中心主義

軍隊内務書改定セラレテ以來既二十有餘年此ノ間世相ノ變遷、人心ノ動向、編制、制度ノ改正等ニ伴ヒ軍隊ノ實情ニ適應シテ内務ノ刷新向上ヲ圖リ軍ノ實力ヲ増強センカ爲メ一部ヲ改正スルノ必要ヲ生スルニ至レリ而シテ之カ改正ニ當リ留意セシ點左ノ如シ

一、皇軍意識ヲ徹底セシム
我國軍ハ天皇親率ノ軍隊トシテ其ノ使命ヲ貫徹スルノ覺悟ヲ堅持セザルヘカラスル所以ヲ明徴ニシ以テ將兵共ニ軍ノ本義ニ基キ居常聖諭ヲ奉體シテ其本務ニ精進スヘキコトヲ強調セリ

二、隊長中心主義ヲ高唱セリ
隊長ハ部下將兵ヲ打ツテ一丸ト爲シ自ラ其ノ團結ノ中樞トナリ部下亦常ニ隊長ニ信倚シ之ヲ擁シテ核心ト爲シ以テ鞏固ナル團結ヲ形成スヘキコトヲ高唱セリ蓋シ

三、將校ニ對スル要望ヲ高唱セリ
將校ハ軍隊ノ棟樑ニシテ軍人精神及軍紀ノ本源タルヲ以テ其ノ責務ノ重大ナルヲ自覺シ一意修養研鑽ニ勉メ以テ其本分ヲ完ウスヘキヲ示セリ

四、軍隊ニ對スル矯激ナル宜傳策動ヲ防止ス
世相ノ變遷ニ伴ヒ軍隊ニ對シ果テ其ノ成立ニ及ホサントスルカ如キ不穩ナル宣傳策動ヲ爲スモノアルニ至リシヲ以テ之カ指導取締ニ關シ遺憾ナカラシムル如ク増補セリ

五、時流迎合ノ嫌アルカ如キ字句條項ヲ修正又ハ削除セリ

六、中隊連署士官制ヲ復活シ
連署士官ニハ特ニ中隊長ノ旨ヲ奉シ内務ノ監督指導ヲモ行ハシムルコトトセリ

七、内務ト其ノ他ノ教育訓練トノ連繫ヲ密接ナラシムル且戰時ノ要求ニ適應スル如ク強調セリ

八、以上ノ外編制制度ノ改變ニ伴ヒ必要ノ改正ヲ爲シ又字句ノ修正ヲ行ヘリ

歐洲大戰後沿々トシテ風靡セル誤レル「デモクラシー」的思想ハ軍紀ヲ振作シ軍ノ團結ヲ完ウスル所以ニアラサルノミナラス特ニ皇軍意識ノ徹底ヲ害スルモノアルヲ以テ舊軍隊内務書ノ記述中之ニ關シ動モスレハ誤解ヲ招クカ如キ字句條項ハ之ヲ修正又ハ削除セリ

九、軍隊並ニ學校教練及青年教練然るに我聯隊區司令部附土井に於て輕機關銃教育の實施に步兵曹長は步兵第三十八聯隊富り尤も困難を感じるは自動及豐橋教導學校にありて永年火器の眞髓たる射法の演練に輕機關銃教育に従事し切實に此欠陥を不便を痛感するの餘此欠陥を補正するに近き自動輕機關銃を發明するに至れり

十、曹長天資の發明力を益々發揚するに共に研鑽意を益々加ふるに前後六回茲に

土井式教育用自動

輕機關銃を推奨す

奈良聯隊區司令官 田路大佐

「日本人こゝにあり」



北滿の義人 村上久米太郎氏の榮譽

大和魂が言葉になつて村上久米太郎氏の胸から迸り出た其言は「日本人こゝにあり」といふ叫びであつた。ところが今回更に同氏に對し褒賞條例により紅綬褒章を賜はる。孝子節婦義侠に授與す

紅綬褒章 人命救助者に授與す

藍綬褒章 發明者及公益事業を完成したる者に授與す

且七官たるの技倆を有す認めたる者は特に之を以て士官を補充することを得さいふ條項乃ち軍人の龜鑑として此恩典に浴したものである

又褒賞條例さいふのは明治十四年十二月七日布告第六三號を以て制定せられたもので奇特の行爲あるものに褒賞として授與されるものである

そして次の種類がある

紅綬褒章 孝子節婦義侠に授與す

藍綬褒章 發明者及公益事業を完成したる者に授與す

第二回義捐金分配表

(昭和九年十一月二十八日在軍第一三五號ニ依リ送付ヲ受ケシ分)

考 備	被 害 程 度		被 害 數 (人)	一人分配金	分配計金	摘 要
	本 人	家 族				
一、受領金計百拾圓ノ中分配金百五圓貳拾五錢差引殘四圓七拾五錢ハ分配金ノ郵送料トス	死	傷	一	四四六	四四六	市ニ家族死亡、一名ニ對シ三、〇九ヲ分配ス
	全 負	全 傷	三	二九〇	八七〇	
二、被害數計七八、ハ當管下全被害數ニシテ今回全被害者ニ分配セリ	全 宅	全 壞	八	二〇〇	一六〇〇	市ニ家族死亡、一名ニ對シ三、〇九ヲ分配ス
	半 壞	半 壞	九	一〇〇	九〇〇	
	工場等	全(半)壞	五二	一〇〇	五二〇〇	
	計		七八	一〇五二	一〇五二五	

分會の活動



大正村分會

一月七日午前十時より大正尋常高等小學校に於て各種團體と共に在滿兵武運長久祈願祭並に凱旋兵歡迎會引續き家族慰安會等を開催し盛會裡に終了散會せり

下北山村分會

一月五日午前九時より分會事務所に於て役員會を開催し昭和十年度分會經費の件奈良支部未納基金納入の件吉野郡分會進決方針に關する件、出動軍人慰問並國防婦人會設立の件等を決議す

一月七日田原小學校に於て渡滿軍人歡迎會を開催し主催者側の祝辭挨拶に代りて凱旋者一同代るべく在滿留守備の所感を述べ一般來會者に異狀なる感激を與へ盛會裡に終了す

小川村分會

十二月九日役場前廣場に於て入營兵報告式を舉行す十二月二十八日小學校庭に於て本年度除隊兵の歡迎式を舉行す

龍門村分會

一月十三日午前龍門尋常小學校に於て未入營者に對して嚴肅裡に補充兵證書傳達式を舉行す午後一時より除隊軍人歡迎會を開催し盛會裡に散會す

富雄村分會

一月 日分會查閱を終了後分會總會を開催し司令官の時局講演會を舉行し盛會裡に終了散會す

都跡村分會

一月四日都跡小學校に全會員集合し勸諭勸語の奉讀式を舉行し在郷軍人としての責務の重大なるを肝銘す

河合村分會

一月十日河合村役場に於て分會評議員及班長會議を開催し除隊兵並第一補充兵編入者の入會式を舉行し分會長訓示を與へ式を終了す

田原村分會

一月七日田原小學校に於て渡滿軍人歡迎會を開催し主催者側の祝辭挨拶に代りて凱旋者一同代るべく在滿留守備の所感を述べ一般來會者に異狀なる感激を與へ盛會裡に終了す

三輪町分會

十二月二十日新任關東軍司令官南大將樺原原通通過に際し分會員一同三輪驛に送迎す十二月二十六日樺原部隊本年度除隊兵歸還に際し分會長以下奈良縣に出迎ふ

片桐村分會

一月一日午前九時より片桐村小學校に於て拜賀式を舉行し盛會裡に終了す

政始村分會

十二月二十六日道路愛護會作業として分會全員午前七時集合をせり縣道小川線の修理事業に従事して繁忙なる時期に分會員は美しき犠牲的精神を發揮せり

福住村分會

昭和九年十二月十日より一週間福住村小學校に於て分會長並青調指導員の指導の下に未教育者に對する軍事教練を施行し時局重大性を自覺せる一同終始出席熱心受訓し初期の目的を達成し終了す

富郷村分會

一月六日午後一時より幸前神社に於て凱旋兵士の歸還報告祭を舉行し引續き分會事務所に於て新分會員としての入會式並に歡迎會を開催し盛會裡に終了す

榛原町分會

十二月二十日新任關東軍司令官南大將樺原原通通過に際し分會員一同榛原驛に送迎をなす十二月二十六日凱旋兵歸還に際し分會員一同榛原驛に歡迎す

下田村分會

一月四日午後七時より班長會を開催し未教育補充兵に對して一月七日より十六日迄午後七時より軍事教練實施の件、凱旋兵に對する歡迎會開催の件、衛戍病院娛樂室建設寄附金の件、海軍々種會議講演會を三月十日に開催の件等に關して決議せり

阪合部村分會

一月八日午前八時阪合部第一小學校に於て全分會員集合し分會野外教練を施行す終了後忠魂碑に參拜し非常時郷軍の責務の重大なるを肝銘す

船倉村分會

十二月十八日分會事務所に於て役員會を開催し武術大會に於ける選手成績報告の件、入隊除隊兵渡滿送迎の件、未教育補充兵軍事教練實施の件、分會總會の件等を討議す

北宇智村分會

一月三日金陽射撃場に於て未教育補充兵全員集合の上射撃大會を舉行す一同熱心にして成績良好非常時郷軍の意氣を擧げ盛會裡に終了す

御杖村分會

十一月二十一日未教育補充兵青調練生中家生徒聯合野外教練を施行す當日奈良縣隊區司令部清田副官の參觀ありて一同熱心志氣旺盛盛會裡に終了し本演習の目的を達成し得たり

南宇智村分會

十二月四日より七日間南宇智村尋常高等小學校に於て

謹告

※自動火器の進歩と共に近時青年訓練學校教練等にも輕機關銃教育を重要視せらるるに至りたることは承知の所でありませ

※然るに今日迄完全なる教育用輕機關銃の發賣を見ざりし事は誠に遺憾に思ひ研究に研究を重ね此處に完全なる教育用自動輕機關銃を發明され弊社に於て發賣することになりました

※即ち本銃は斯界の權威者譽つて推獎されて居る專賣特許土井式教育用輕機關銃にして奈良縣隊區司令部附上井筒作氏の發明に係るものであります



※其形態操作等は寫眞に示す如く現十一年式輕機關銃に最も近似し教育用並に戰見現用として最適當のものに確信致して居ります

發賣元 株式会社土井式發明品製作所 營業所 大阪市旭區鴨野町五一番地 奈良縣 大和郡 御杖村 更谷 政直

陸軍御用達 清涼劑 福美丹 登錄 外優良賣藥製造卸 御用達 外優良賣藥製造卸 胃腸・榮養・脚氣 ふうくびそ 價格至廉 一〇〇瓦入 (約三十三日分) 壹圓五拾錢

陸軍御用達 諸國時計 貴金屬 多賀時計店 奈良市下清水町 電話一〇九一番

實費 社會奉仕 富士屋社會館 奈良市驛前新國道筋 豫備主任 宮本忠澄 陸軍歩兵中佐 電話一六三九番 奈良一六三九番

寫眞は... 道馬軒へ 奈良縣聯隊前通り 中村朝太郎